

”図書館に人を呼ぶ！”取り組み紹介

1. 図書館で行った取り組み（行う予定の取り組みを書いてもOK!）

内容・テーマ：「和気高30選」読破に向けて

「和気高30選」とは、生徒の読書への陽白を少しでも高めていこうということで、①生徒が読み易い本、②生徒に読んでもらいたい本、という方針のもと平成17年度に生徒と教員で選定したもの。図書室に『30選コーナー』を設け、最初3セットを常備し貸出可能とした。平成18・19年度とプラス10選を加え、平成20年度には50冊となり、さらに選択の幅を増やした。30選読破した生徒は学校表彰をするシステム。読破規定は1冊毎に「あらすじ」と「感想」を記した様式の「読書レポート」を提出。「読書レポート」は図書室に用意しているほか、長期休業中の課題にもしている。また、平成13年から始まっている「朝の読書」（8:40～8:50）にも利用できるよう、各クラスに設置してある読書ボックスへ文庫本のみ約20冊を入れて閲覧可とした。

〈経過〉

H21年度に6名の読破者（3年生）→表彰状と記念品（シャーペン付ボールペン）を贈った。H22年度は該当者なし。

2. 工夫したポイント

〈現在〉

- ・図書だよりに和気高30選の紹介を載せ、広報（特に1年生に向けて）
- ・読み終わった子には、読後カードを書くよう声をかけて勧める。
- ・複数冊ある本は面陳列にしたり、表紙一覧のPOPをカウンターに置いて目を引くようにした。

〈今後〉

- ・クラスの読書ボックスにも読後カードを一緒に入れておき、図書室に足を運んでもらえるようにする。
- ・独立したスペースに配置し、全選書が見やすいように並べ変えることを検討。

3. 結果・次回への反省

- ・選書してから期間が経つので、選書を見直す。
- ・読破した生徒への表彰の形。
副賞を何にするか。図書カードが最適だと思われるが、金券になるので難しい。

〈施設面〉

冬場はとても冷える。ストーブやクーラーで居心地の良い環境を作る。
ブラインドを開けたり、入口のドアが重いので、開放することで来館者が増えた。